



つなみ
いわてTSUNAMIメモリアル (東日本大震災津波伝承館)

展示テーマ 命を守り、海と大地と共に生きる
～二度と東日本大震災津波の悲しみをくり返さないために～



東日本大震災津波伝承館が入っている道の駅「高田松原」
[開館時間] 9:00～17:00 (入館は16:30まで)
[休館日] 12月29日から1月3日、
施設メンテナンスを行う日(年4日程度)
[入館料] 無料 [無料駐車場] 180台
[問い合わせ先] 0192-47-4455

エントランス



来館者を最初に迎えるインフォメーションゾーン。公園、陸前高田市の市街地、三陸沿岸地域の震災伝承関連施設や観光情報のほか、全国・世界の災害伝承施設の情報を提供します。

ゾーン2 事実を知る



東日本大震災津波の事実をありのままに伝え、津波の脅威と被害の事実、命が失われることの重さを、一人一人の心に刻みます。また、津波で失われてしまった故郷の風景を記憶・継承します。

ゾーン4 復興を共に進める



東日本大震災津波からの復興の歩みを進める地域の姿を、国内外からいただいている多くの支援に対する感謝と共に伝えます。

ゾーン1 歴史をひもとく



津波災害を歴史的・科学的視点からひもときます。古来から育まれてきた知恵や技術、文化を見つめ直し、自然と共に暮らすということを改めて考えます。

ゾーン3 教訓を学ぶ



災害から命を守るために、これからどうしたらよいか考えます。知恵と技術で災害に備え、「逃げる」ことへの意識と行動を変えれば多くの命を守ることができるということを伝えます。



詳しくはこちらから



特集2 東日本大震災津波伝承館開館

震災の経験と教訓を未来へ!



東日本大震災津波伝承館の解説員の皆さん。震災の事実と教訓、復興への思いを発信していきます。

解説員インタビュー



震災の教訓を世界中に伝えていきたい

東日本大震災津波伝承館 解説員
ザカリ・キャセルマンさん

伝承館では、世界中から集まる来館者に対応するため、英語と中国語を担当する解説員が見学をサポートします。その一人であるザカリ・キャセルマンさんは、アメリカ出身。これまで各地の被災現場を訪れて、地域の人々から震災や復興を学び、開館に向け準備してきました。「震災の事実だけでなく、震災から得た教訓や防災の取り組みは、とても価値があることです。例えば“津波てんでんこ”という教えを、外国の人は知りません。こうした教訓を世界の人々に役立ててもらえるように、来館者や海外メディアに伝えていきたいですね」とキャセルマンさん。言葉の壁を乗り越えて会得した学びを、世界と共有したいと奮闘しています。

かつて多くの市民や観光客に愛された高田松原があった地区に、国、県、陸前高田市が連携して、令和3年度の全面オープンを目指し、「高田松原津波復興祈念公園」の整備を進めています。復興祈念公園は、東日本大震災津波の犠牲者を追悼し、震災の経験や教訓を次世代に継承しながら、地域のにぎわいを再生することを目的としています。9月22日、公園内に「東日本大震災津波伝承館」(愛称「いわてTSUNAMIメモリアル」)と道
の駅「高田松原」、国営追悼・祈念施設の一部分がオープンしました。伝承館では、来館者に震災の事実を知り、教訓を学んでもらうため、被災した気仙大橋の一部と消防車をはじめとする展示などについて解説員が案内しています。そのほか、企業・団体、小中学生向けのプログラムによる防災・復興教育や普及活動の役割を担っているほか、大学や国内外の伝承館と連携し、ネットワークや交流の拡大にも取り組んでいます。